



理振協会会報

編集：(公社)日本理科教育振興協会 広報委員会
制作：株式会社 大洋堂



公益社団法人 日本理科教育振興協会
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28
TEL: 03-3294-0715 FAX: 03-3294-0716
URL: <https://www.japse.or.jp>

CONTENTS

第53回定時総会のご報告

- 会長挨拶 (p1) ■ 盛山文部科学大臣祝辞 (p2)
- 第53回定時総会 議事録 (p3)
- 令和6年度 事業計画 (p4) ■ 永年勤続表彰 (p6)
- 情報交換会のひとこま (p6) ■ 来賓のご挨拶 (p7)

祝 全国理科学研究大会

- (一社)日本理科教育学会会長挨拶 (p8)
- 日本理化学教会会長挨拶 (p8)
- 全国中学校理科教育研究会会長挨拶 (p9)
- 全国小学校理科研究協議会会長挨拶 (p9)

令和6年度理科教育設備整備費等補助金進捗状況 (p10)

- 安心安全ドキュメントを作成いたしました (p10)
- 令和6年度理科教育設備整備費等補助事業・台帳作成説明会 実施報告 (p11)
- 令和6年度復興教育支援事業計画 (p11)
- 理科観察実験指導力向上セミナー 実施 (p11)



第53回 定時総会を迎えて

会員の皆様、定時総会にご参加をいただき、誠にありがとうございます。来賓として文部科学省からは盛山大臣のご代理として審議官の森孝之様にお越しいただき、また理科教育の関係諸団体からも多数ご来賓としてご参加を頂いたことも併せて、深く感謝を申し上げる次第です。

さて、多くの理科教育関係者の強い思いのもとに1953年、議員立法で成立した理科教育振興法は、本年は70年目を迎えております。当時の理科教育はどのような位置づけであったのでしょうか。戦後の荒廃から漸く立ち直り、前に進みだした日本。そこに国民一人一人の科学の力でより前に踏みだそうとした決意を感じます。そして10年後の1963年、この理科教育への思いを維持発展するべく設立されたのが私ども理科教育振興協会であり、満60周年の年になります。



公益社団法人
日本理科教育振興協会
会長 大久保 昇

令和6年度 第53回 定時総会 公益社団法人 日本理科教育振興協会



現在の日本は、70年前と同様に理系人材が強く求められる存在になりました。日本の大学は文系の人数比が大きく、現在の日本の大学における理系人材の割合は、米中や世界の先進国の中で最も低い国となったのです。ある時期には、理系は潰しが利かない、経営者には向かないとささやかれていた時期もありました。なぜ今の日本で理系人材が求められるのか。

科学技術は着実に進歩していきますが、混沌とした現代、将来を予測することが困難であります。その時代だからこそ、

しっかりと事実に基づいたうえで考えを展開し仮説を立てる力が求められます。一方、仮説を試行する過程では予想外のことが起きることがあります。そこから新たな発見が生まれ、ノーベル賞級の発明がいくつも生まれてきました。このような発見・発明が可能になるのは、どうしてこのようなデータが出たのだろうと興味を示す好奇心ではないかと思います。「ひょっとしたら、ここには違うものがあるかもしれない」という気持ちは、どのような場面でも大事なことです。事実に基づいて考えることを大事にし、そのうえに好奇心があればさらにチャレンジすることができます。理科教育には、仮説を立案しようとする志向と、予想外のことに関心を示す好奇心、この両方を育てる力があると私ども理科教育振興協会は信じています。

本年の協会創立60年、また理科教育振興法制定70年目に当たる年として、新たな第一歩を踏み出すべく、今後もしっかりと理科教育普及充実活動を推進していく本年の総会になればと考えています。

なお総会終了後の講演は、中央教育審議会会長の荒瀬先生から「子どもを主語にする学校を目指して」とわくわくするような講演をしていただきます。その後の情報交換会まで長い時間とはなりますが、皆様と密度の高い時間を過ごしたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

公益社団法人日本理科教育振興協会 第53回定時総会文部科学大臣祝辞



代読
文部科学省 大臣官房
審議官

森 孝之

本日、公益社団法人日本理科教育振興協会第53回定時総会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

はじめに、御参集の皆様におかれては、日頃から子供たちや教師が観察、実験で活用する優れた理科教材を開発し、理科教育の充実・発展に多大な御尽力をいただいていることについて、心から感謝申し上げます。

さて、生成AIなどの新しい技術が次々と実装され、将来の予測が困難な時代においては、急激な変化や様々な課題を乗り越えるため、新しい時代の教育を実現していかなければなりません。

日本の学校教育の更なる高みを目指して、GIGAスクール構想の更なる推進や教師を取り巻く環境整備などによる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、情報教育並びに探究活動の充実及び文理横断的な学びの推進によるデジタル人材育成の抜本的な強化を図るなど、学校教育の質の向上を通じた、全ての子供たちへのより良い教育を実現することが重要です。

こうした中であって、理数系人材の育成は喫緊の課題の一つです。初等中等教育段階からの理科教育を一層充実させ、子供たちが観察、実験を通じて自然の事物・現象に直接触れながら、科学技術への興味・関心を高め、科学的に探究する力を育成していくことは、この国の未来の担い手を育てることに繋がっていくものと考えます。

文部科学省といたしましては、理科教育を発展・充実させていくため、理科教育等に必要な設備整備の支援をはじめ、子供たちに必要な資質能力を育てるための施策を引き続き進めてまいりますので、今後とも皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、貴協会のますますの御発展と、皆様の一層の御活躍を祈念いたしまして、私からの挨拶といたします。

令和6年5月23日

文部科学大臣 盛山 正仁

令和6年度 第53回定時総会 議事録

1. 日 時：令和6年5月23日（木） 13時30分～15時10分
2. 場 所：東京ガーデンパレス（東京都文京区湯島1-7-5）
3. 出席者：正会員総数 1,061社 出席者数 768社（うち委任状742社）
4. 理事及び監事の出席状況

出席理事	14名	大久保昇、西松正文、中村友香、中井泉、小林啓介、岩瀬英人、西尾克人、大熊一正、仁井田孝春、久保田善彦、鈴木盛一郎、白石豊、大貫重良、石崎裕行
出席監事	2名	森川将成、中田弘明
理事就任予定	2名	杉山勇、石代俊則

5. 議事の経過及び結果

13時30分、副会長 中井 泉 氏 から開会宣言があった後、司会の副会長 中村 友香 氏 から定款 第17条の規定のとおり会員総数の過半数の出席により本総会が有効に成立している旨の報告があり、続いて定款 第15条第1項の規定により、会長 大久保 昇氏が議長となり、次の報告事項の後、2議案について逐次審議した。

❖報告事項

令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画及び事業予算について大久保議長が自ら報告を行った。

❖第一号議案 令和5年度 収支決算報告の件

議長の指名により常務理事 石崎 裕行氏が、配布資料に基づき、令和5年度収支 決算報告(①貸借対照表、②正味財産増減計算書、③内訳表、④財務諸表に対する注記、⑤財産目録、⑥附属明細書)について説明し、議長から以上についての意見・質疑を求めたところ全員異議なく拍手をもって、これを可決、承認した。

次いで、監事 森川 将成氏から定款 第38条の規定により監査の結果、正確妥当であった旨の報告があり全員異議なく拍手をもって、これを可決、承認した。

❖第二号議案 役員改選の件

議長より、配布資料に基づき、役員候補の理事2名の氏名を一人ずつ発表し、候補者一人ずつ、全員異議なく可決、承認された。また、役員候補の理事2名とも自ら役員就任を承諾した。

15時をもって役員改選が締結された。

続いて、議長から以上で総会の全議事が終了したことが宣言され、議事録記名者として次の2氏を指名、承認を求めたところ全員異議なくこれを可決、承認した。

中村 友香 氏（株式会社ナリカ 代表取締役社長）

鈴木 盛一郎 氏（株式会社鈴盛商会 代表取締役社長）

以上をもって15時10分に全議事を終了し、副会長 西松 正文氏が閉会を宣言し、全日程を終了した。

講演

演 題 『子どもを主語にする学校をめざして』

講 師 独立行政法人教職員支援機構理事長／
中央教育審議会会長
荒瀬 克己 氏



現在の高等学校では、「探究」を軸とした学びが展開していますが、30年近く前に堀川高校では、生徒を主語にする「探究」を模索してこられたというお話をいただきました。

いまもなお「探究をして大学に受かるのか」という高校関係者もおられますが、堀川高校では毎年、生徒の希望する進路が実現しています。生徒自身が自分の知りたいことを見つけていく過程で、自己の在り方生き方に向き合って将来について考えることは、分からないことに耐える力をも養うなど、普段、私たちが思いもつかない、まさに子どもを主語にした教育の魅力を見た気がします。

宇宙に強い関心を持ち、電波望遠鏡に魅せられ、生涯の仕事として研究を続けている教え子がいらっしやることをご紹介いただきましたが、とても印象的でした。

高校生の時に自分の人生を決めるほどの衝撃を受けることもあると改めて知り、理科教育の重要性を聴講者全員が感じました。

令和6年度

事業計画

1 公立、私立を問わず、全ての児童生徒が観察・実験を十分に実施できるよう、理科教育環境整備をめざす

1-1 理科の実験観察に必要な機器の整備のため、国の予算が潤沢に措置されるよう働きかけを行うとともに、国庫補助申請を適切に行えるよう支援活動を強化する

- 理科教育設備整備補助事業予算計上の複数年計画に向けた活動を推進する。都道府県市区町村に対し次年度予算増額計上まで含めた予算増額活動を実施する。
- 適宜適切な媒体を用いて設置者と学校への正確かつタイムリーな情報伝達を図り、理科教育設備整備事業の普及活動を継続する。
- 理科教育環境整備が進まない市区町村対策として、都道府県に協力をいただき、都道府県との協働開催について昨年度以上の実施を目指す。
- 事業申請・管理台帳作成等の実務セミナーや個別相談会の開催を実施する。



理振・台帳説明会

1-2 理科観察実験に関連するその他の必要な予算措置の働きかけを推進する

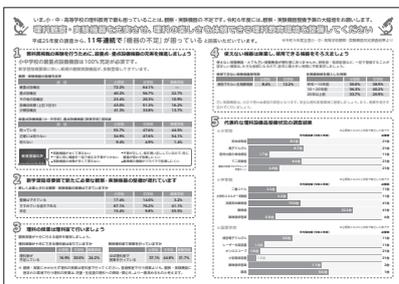
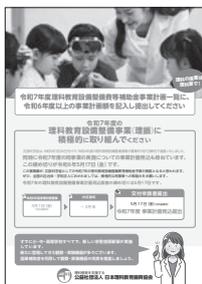
- 「観察・実験」で必須となる消耗品予算の確保に向けた啓発活動の展開も推進する。
- 理科実験支援員が十分に配置されるべく拡充に向けて活動する。

1-3 新しい基準品目において、最重点品目・重点品目とされる観察実験機器の整備充実を図るとともに、使用できない機器の廃棄をすすめる

- 新たに追加された機器の充足現状を把握し、整備充実につなぐ活動を推進する。
- 老朽化等から使えない観察実験機器について、文部科学省の廃棄基準についての周知徹底を図り廃棄を促進する。

1-4 観察・実験の拡大強化を促進するための調査、分析活動の充実

- 学校現場の現状及び課題を調査・分析し、調査結果から得られた学校の現状を広く訴え、理科教育充実につなぐ活動を推進する。



2 「理科の授業は理科室で」の実現を目指し、理科室および周辺環境の整備充実をすすめる

2-1 理科教育を支える理科室の環境整備の促進を図る

- 理科室での実験台・収納戸棚・安全施設の充実や理科準備室の整備のため、文教施設全般についての仕組みを把握し、理科教育施設の質的、量的向上を目指す。

2-2 情報端末の普及など学校を取り巻く状況の 変化に積極的に対応する

- 観察・実験において理解を深めるための良い事例として、情報端末と観察実験機器を連携させたモデルとなる観察実験の事例を抽出し紹介する。

3 教育用理科機器の安全・品質向上ならびに観察・実験指導の向上を支援する

- 観察実験授業における不測の事態発生状況調査に基づき、特に注意すべき実験について安全・安心に実験が行えるよう 刊行物を作成し配布する。
- 観察実験の拡大に向けて、小学校を中心とした観察実験指導力向上セミナーの開催及び支援活動を行う。
- 教育用理科機器の品質向上及び安心安全に観察実験が行えることを目的として、諸外国における理科教育環境の調査を進める。

4 理系進路選択の生徒の増加を目指す

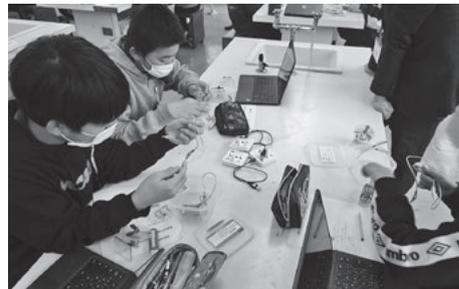
- 現状の理系・文系進路選択について、その岐路となる要因の調査を行い現状の把握に努める。
- 女子生徒が将来の進路として科学を目指す理科好きな女子中学生・高校生育成のための活動の検討に着手する。
- STEAM教育の中で理科が中心となった活動を紹介していく。

5 広く社会での理科教育推進の理解が進むような諸活動の推進

- 有識者、国会議員等に理科教育の意義を訴え将来に向けての世論喚起を図る。

6 理科教育の普及啓発に関するその他事業の実施

- 自然災害被災地区における出前授業を通じ、防災、自然災害に対する関心と科学知識が実践で役に立つ学習を目指した活動を行う。
- 各種理科教育啓発事業への協力および参加。



被災地での理科実験授業

7 関係機関・諸団体との協力活動の推進

- 理科教育を推進する諸団体への活動支援事業の実施。
- 関係機関・諸団体との相互協力の推進。

8 会員・関係者に対する活動の拡大

- ホームページ等による広報活動の充実と会員に対するサービスの拡充。
- 毒物及び劇物取扱責任者資格試験の受験への支援を継続拡大する。

9 公益社団法人として協会の基盤確立を実施

- 会員数・口数の拡充に努め、財務的基盤の確立を進める。
- 公益事業の拡大とそれを支える健全なる会計財務運営を図る。

第53回定時総会

永年勤続優秀社員表彰

令和6年度第53回永年勤続優秀社員表彰者は、右表のとおり7社11名となりました。

株式会社京都科学 石川直登 様、株式会社ナリカ Marcik Michal 様が壇上に上がり、大久保会長より賞状が授与されました。



永年勤続・優秀社員表彰

No	氏名	所属企業
1	井出 吉紀	株式会社東京事務器
2	浜島 夏美	株式会社雄飛堂
3	Marcik Michal	株式会社ナリカ
4	秀谷 謙介	ケニス株式会社
5	小早川 和哉	ケニス株式会社
6	坪井 和仁	株式会社島津理化
7	田中 良典	株式会社島津理化
8	浅見 純子	株式会社京都科学
9	石川 直登	株式会社京都科学
10	大久保 晃	株式会社内田洋行
11	老山 泉	株式会社内田洋行

情報交換会のひとこま



来賓のご挨拶

文部科学副大臣 **あべ 俊子**



日頃から理科教育の充実に多大な御尽力をいただき、感謝申し上げます。

理数系教育の現状は、学力は高水準な一方、理工系学部への進学割合と児童生徒の理数教科に対する興味・関心が低調です。この現状を打破するには、初等中等教育から高等教育まで一貫通貫した理系人材の育成・活躍に資する施策の実施が必要です。

文部科学省としては、実験器具の整備や観察実験アシスタントの配置、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業など、理数教育の充実に尽力いたします。

今後とも皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。



衆議院議員 **塩谷立**



衆議院議員 **遠藤利明**



衆議院議員 **柴山昌彦**



衆議院議員 **田野瀬太道**



衆議院議員 **笠浩史**



衆議院議員 **古屋圭司**



参議院議員 **山谷えり子**



参議院議員 **大島九州男**



参議院議員 **石井苗子**

総会当日には、衆議院議員 義家弘介先生より祝電をいただきました。



全国理科学研究大会

一般社団法人日本理科教育学会 第74回全国大会（滋賀大会によせて）



一般社団法人 日本理科教育学会
会長 **久保田 善彦**

9月7日（土）～9月8日（日）
龍谷大学（瀬田キャンパス）

本年度の全国大会は、昨年度に続き対面の開催となります。実行委員長・藤岡達也（滋賀大学）のもと、9月7日（土）から9月8日（日）の2日間にわたり、理科教育に関する理論的・実践的な研究発表がなされる予定です。記念講演Ⅰ「近江牛を科学する」は、滋賀県農政水産部の北川貴志氏に登壇いただきます。記念講演Ⅱ「STEAM教育とSDGsの観点から自然災害をどう取り扱うか」は、滋賀大学の藤岡達也氏に登壇いただきます。更に、ダイバーシティ推進委員会・次世代企画委員会合同企画、「理科の教育」編集委員会ワークショップが実施される予定です。また、例年通り、課題研究発表、一般発表が用意されており、全国大会発表論文集（電子版：pdf配信）も引き続き刊行いたします。更に、6日（金）には、巡検等のエクスカージョンを予定しています。詳細は、全国大会のホームページ [<https://national.sjst.jp/2024>] をご参照いただければ幸いです。

最後になりましたが、公益社団法人日本理科教育振興協会による本全国大会へのご支援とご協力に対して、会員を代表して深く御礼申し上げます。

令和6年度全国理科教育大会 第95回日本理化学協会総会 東京大会によせて



日本理化学協会
会長 **仁井田 孝春**

令和6年度全国理科教育大会・
第95回日本理化学協会総会（東京大会）
令和6年8月7日（水）～9日（金）

本年度の全国大会は、運営委員長・東京都立小平南高等学校・中野清吾校長のもと、8月7日（水）から8月9日（金）の3日間、工学院大学新宿キャンパスを会場とし、『「持続可能な社会の担い手を育む理科教育」-生徒の創造的な探究・挑戦・協働を通して-』を大会主題に掲げ、主体的・対話的で深い学びを実現するための魅力ある理科教育の在り方、及びより良い指導方法等を議論し研鑽を深める予定です。文部科学省講話では、文部科学省初等中等教育局・教科調査官・小林一人氏より「これからの理科教育を考える-個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して-」の演題でご指導頂きます。記念講演では、工学院大学情報学部情報デザイン学科教授・田中久弥氏より「DXの本当の意味は何か。DX実践ラボの取り組み」について、お話を伺います。また、「スペシャリストの育成」及び「市民としてのリテラシー向上」をテーマに展開する9つの研究協議分科会、多様な分野の実践事例報告や研究発表、実験講習会、ワークショップ、コース別研修、教育懇話会等、魅力的な内容が企画されております。高等学校における新学習指導要領の実施に関する情報・知見も含め、理科教育のさらなる充実・発展につながることを期待しております。

詳細は、本大会のWebサイト [<https://www.knt.co.jp/ec/2024/nirika/>] をご参照頂ければ幸いです。

最後になりましたが、本大会には毎年、公益社団法人日本理科教育振興協会より多大なるご支援とご協力をいただいておりますこと、会員を代表して深く感謝申し上げます。



全国理科研究大会

第71回全国中学校理科教育研究会 山梨大会の開催について

第71回全国中学校理科教育研究会 山梨大会
第33回関東甲信越地区中学校理科教育研究会研究大会
令和6年8月8日(木)～10日(土)



全国中学校理科教育研究会
会長 石代 俊則

公益社団法人日本理科教育振興協会の皆様には、日頃より全中理に多大なるご支援をいただき感謝申し上げます。今年度、全国理科教育研究会は、山梨県甲府市において、大会主題「自然の事象に関わり、観察や実験、科学的な探究活動を通して、持続可能な未来を創造する力を育む理科教育」のもと、全中理山梨大会を上記の日程で開催します。

これからの日本の教育は、変化が激しく予測困難な時代を生き抜く子供たちが自ら課題を発見し、判断し、解決していく力を育むことが求められています。そのためには、理科教育においても科学的な探究活動を通して仮説を立てたり、検証方法を考えたり、結果を考察し、発表したりする力を育成することが必要であり、そのことが持続的な未来を創造することの一助になっていくと考えています。今年度の山梨大会を通じて、全国の理科の教員がつながるとともに、優れた授業実践が共有され、協議によってさらに深まり、日々の授業の改善になることを強く期待しています。

「共に学び、問い続ける子どもの育成」 全国小学校理科研究協議会研究大会広島大会の開催

第57回全国小学校理科研究協議会研究大会
広島大会
令和6年11月21日(木)・22日(金)



全国小学校理科研究協議会
会長 杉山 勇

全国小学校理科研究協議会は、大会主題を「グローバル社会を生き抜く心豊かな人間を育てる理科教育」のもと、広島大会の研究主題を「身の回りの自然の事象・現象に自ら関わり、共に学び、問い続ける子どもの育成」と設定し、上記の日程で開催されます。2日目には、広島市の3つの小学校を会場に第3学年以上の全学年で公開授業を実施します。さらに各会場では、各都道府県の研究授業実践の発表の場として学年別分科会発表も行われます。広島大会では、目指す子ども像に迫るために、授業における多様な関わりを視点として、授業改善に取り組み、理科で育てる資質・能力の育成を図っています。ICT活用や個別最適な学びに係る学習形態等の工夫を踏まえながら、「子ども主体の学び」について共に考える機会になると考えており、期待が膨らむ大会です。

結びになりますが、本会及び本大会のためにご支援をいただいております 公益社団法人日本理科教育振興協会会長 大久保 昇 様をはじめ、協会の皆様に深く感謝申し上げます。

令和6年度理科教育設備整備費等補助金進捗状況

1 令和6年度理振事業への対応

文部科学省より令和6年度理振事業の募集案内が1月26日付けで通知されました。

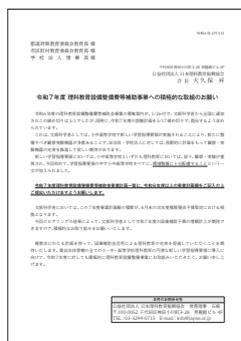
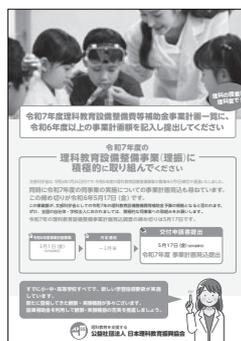
理振協会では、全国都道府県市区町村・学校法人に対して理振事業参画促進のパンフレット及び案内を発送いたしました。



2 令和7年度理振事業への対応

文部科学省は、令和6年度事業募集に合わせて令和7年度の事業計画も、交付申請締め切りまでに提出するように指示されています。

これは、8月の文部科学省令和7年度概算予算要求において、理科教育設備整備費等補助金予算立案の基礎となる数字となりますので、大変重要な意味を持ちます。できるだけ多くの希望が集まるように、理振協会では全国市町村・私立学校に令和7年度事業への取り組み促進パンフレットを4月1日付で発送いたしました。



3 交付決定

本年度の理科教育設備整備費等補助金の交付決定は、6/16に通知されました。

今回の交付決定額においては、若干今年度予算が残りますので、これから秋に向けて追加募集が行われる見込みです。

※当初予算 17.2億円 6/16 令和6年度交付決定額 16.7億円

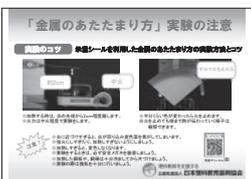
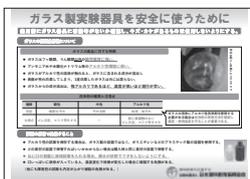
安心安全ドキュメントを作成いたしました

令和5年度事業として下記5点をホームページにアップいたしました。

ダウンロードしてご利用ください。

<https://www.japse.or.jp/publication>

- ・ ガラス製実験器具を安全に使うために
- ・ じゃがいもの葉のでんぷん調べ
- ・ 金属の温まり方実験の注意
- ・ アンモニア水の正しい取扱い方
- ・ 静電気発生装置を使う際の注意点



令和6年度理科教育設備整備費等補助事業・台帳作成説明会 実施報告

実施日	場所	講師	参加者
5月28日(火)	東京 連合会館	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 小林 一人 氏	学校法人：31 教育委員会：10 計46名
6月4日(火)	大阪 OMMビル	文部科学省初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹 氏	学校法人：11 教育委員会：12 計26名
6月11日(火)	福岡 アクア福岡	文部科学省初等中等教育局 教科調査官 真井 克子 氏	学校法人：9 教育委員会：4 計16名

説明会は、平成28年から本年までのべ**73会場**で実施いたしました。

これまで累計で、学校法人 **1,309校**、都道府県市区町村自治体 **669自治体**、累計参加者 **2,963名**に受講いただきました。



東京会場 小林一人教科調査官



大阪会場 藤枝秀樹視学官



福岡会場 真井克子教科調査官

令和6年度 復興教育支援事業計画**1 令和6年度事業計画**

事業実施以来、13年目となります。本年は、東日本大震災地域 特に第一原発避難地区を中心として、実施させていただきます。

実施地区・・・双葉町、大熊町、浪江町、南相馬市、陸前高田市

実施時期・・・令和6年9月～12月度

実施授業・・・教科書掲載の観察実験授業を実施

平成23年から実施して、今までに **小学校242校 766時間 15,706名の児童たちと一緒に観察・実験授業をいたしました。**

理科観察実験指導力向上セミナー実施

安全で楽しい理科観察実験を、できるだけたくさん、児童生徒に体験してもらいたいと思います。そのためには小学校・中学校の教諭の指導力がとても重要になります。

本年で、小教師向けの指導力向上セミナーは12回目を迎えます。

また令和5年より、愛知教育大学では中学校教師対象にもセミナーを開始し、本年は2回目となります。受講された方々には好評をいただいております、今後も継続して実施させていただきます。

第12回	国立天文台	7月30日[火]
第12回	葛飾区科学教育センター【未来わくわく館】	8月19日[月]
第12回	愛知教育大学(小学校教諭対象)	8月21日[水]
第2回	愛知教育大学(中学校教諭対象)	8月22日[木]

UCHIDA

New

生物顕微鏡に落射照明と
2倍対物レンズを搭載!
実体顕微鏡のように光を透過しない
対象物が観察可能になりました。

生物 + 実体



ウチダ

マルチファンクション生物・実体顕微鏡 SF-600ML

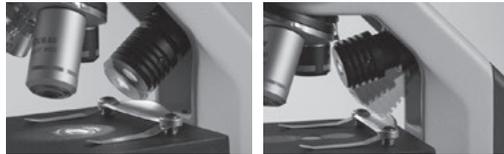
型番	型式	付属品	本体価格	税込価格
8-170-0534	SF-600ML	—	¥68,000	¥74,800
8-170-0536		簡易メカニカルステージ	¥74,000	¥81,400

総合倍率 600倍	粗微動 	LED 	虹彩絞り
メカニカルステージ 	バッテリー 	反射鏡 	
簡易メカニカルステージ付のみ			
最低倍率 20倍	40倍対物レンズ 	落射照明 	



落射照明

角度や集光具合を調節することができます。



長作動距離40倍レンズ

対物レンズへの溶液の付着やカバーガラスの破損を低減します。



長作動距離レンズ

従来のレンズ



授業ですぐ使える圧倒的な商品数が揃っています!

内田洋行

ウチダの各種教育カタログを横断して
商品検索ができます!



www.edu-catalog.uchida.co.jp/library/public/book/list

東日本営業部
〒135-0016
東京都江東区東陽2-3-25
☎03(5634)6280

北海道営業部
〒060-0031
札幌市中央区北1条東4-1-1
☎011(214)8630

西日本営業部
〒540-8520
大阪市中央区和泉町2-2-2
☎06(6920)2480

九州第1営業部
〒810-0041
福岡市中央区大名2-9-27
☎092(735)6240